

# ふるさと奥尻通信

平成29年2月28日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

昭和40年度、島内には小学校(分校含む)が9つと中学校が5つあった。在籍児童生徒数、小学校1278人、中学校685人。87名の教員が人の道を説いていた。

## 特集 奥尻中学、青苗中学閉校

平成28年度末を以って、奥尻中学校と青苗中学校は閉校し、統合の上で新生の「奥尻中学校」が新年度より誕生します。それに先立ち、2月11日には奥尻中で、同25日には青苗中で閉校式典と思い出を語る会が開催されました。

両校ともに昭和22年に新制の中学校として設立され、奥尻中は同44年に稲穂中、宮津中、奥尻中が統合して再出発しているために開校48年、青苗中は昭和55年に神威脇中を統合しながら開校70年の歴史を刻んできました。

奥尻中学校の校舎は開校以来、字奥尻40番地の通称「谷地地区」にありましたが、当初は赤石側の山沿いに木造校舎が建ち、次いで昭和29年に教室と講堂が増築されました。この校舎は同45年に完成した現校舎に代わるまで使用されました。この周辺は元々湿地帯(やちつけ)で戦後しばらく耕作地として使用されていましたが、自衛隊が排水工事を行ってから、宅地に開発されました。奥尻中のグラウンドは米軍の協力で原型が出来、後に「潮見が丘競技場」として整備され、当時は管内でも有数の規模であったそうです。



式典当日の奥尻中学校舎



奥尻中思い出を語る会



青苗中思い出を語る会



奥尻中の皆川校長より新村町長へ校旗返還

一方、青苗中の校舎は、青苗小に隣接する形で建設(現 青苗幼稚園付近)され、増築を経て、昭和36年に平屋トタン葺きの校舎が新築、同55年に字青苗378番地に現校舎が完成するまで使用されました。青苗中の校舎やグラウンド敷地は通称「カベ山」と呼ばれた海成段丘の裾野を切り開いたもので、目の前には地肌が見えた土山が壁のようにそびえ立っていました。この段丘は、平成5年の震災後に防災集団移転用の団地建設のために削り取られ、なだらかな住宅地になっています。

奥尻中校舎は、今後の再利用方法などまだ検討中ですが、青苗中校舎は将来的な使用法は検討中なもの、6月開催の第4回奥尻ムーンライトマラソンのゴール及び後夜祭会場として使用されることになっています。

奥尻中学校の新校舎は、字赤石411番地2の奥尻高等学校横に建設中で、3月下旬までに竣工、引き渡される予定です。4月からは新校舎において、廊下で連結された奥尻高校と連携型の中高一貫校として再スタートします。将来、次第に縮小していき、あろう奥尻のコミュニティにおいて中心的に活躍できる若人の輩出が期待されています。

さて、両校とも、閉校式典では厳かな雰囲気ですら、次第が進みましたが、続く思い出を語る会では、在校生による合唱、当時を語るテーブルスピーチ、卒業生による余興(アンコールあり)などで大いに盛り上がりました。参加者は古き時代の思い出を語り合い、感慨深いものだったことでしょう。巣立った卒業生は奥尻中3256名、青苗中3499名を数えますが、みなさん全国各地で活躍されていることでしょう。



青苗中の松島校長挨拶



三浦監事の余興 大盛り上がりでした!



青苗中学校のグラウンドで野球かソフトボールに興じる女生徒達です。時代は昭和30年代前半頃でしょうか。背後は木造校舎で窓の高さまで暖房用の薪がうず高く積まれています。にわか作りのバックネット、バッターは古風な右打ち、キャッチャーは素手で防具も付けていません。後方は審判を務める先生だと思われます。よそ見をしている生徒の服装はまちまちで、白のズボンが運動用だったものなのでしょう。足元を注目すると、生徒はみなゴムの短靴を履いています。昭和40年頃までは子供なら誰もが履いていた履物です。その昔は古くなった長靴を切り取って使っていた時代もありました。裸足の人も見受けられます。なんだかのどかな時代の学校風景を想起させます。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

イカの不思議 季節の旅人・スルメイカ 桜井泰憲

函館名物(奥尻でも)となっているイカ、実は空を飛ぶんですよ！時速30~40kmの速さで海水を噴き出して滑空していく様は驚きの一言。全世界でイカの種類は約500種、日本ではマイカ、ヤリイカ、コウイカなどが主に漁獲されています。奥尻ではもっぱらマイカとヤリイカですが、アオリイカもたまに見られます。生態を知ることで大漁につながるかもしれませんよ。

月刊 奥尻のつり 2月号

マイカの漁期が終わりまして、続けてヤリイカの回遊が見られるようになりました。朝から漁船の動きが活発です。ヤリイカは字のごとく頭(耳)が細長く鋭角にとんがっています。体長の割に内臓は小さく、塩辛や釣リエサに使うイカゴロと呼ばれる肝臓部分は大きくありません。身はマイカよりも軟らかく、獲れたてをすぐに刺身にしても美味しい甘味が感じられます。丸ごと煮てもよし、焼いてもよしと調理も手軽ですので、一般の釣り客にも人気です。一方、サクラマスはイマイチ岸寄りが少ないようで、景気の良い話は聞こえてきません。こうなると、いつ釣れるかわかりませんので、足しげく通うしかありませんね。ちなみに、同じ種類でも、海に降りずに川で一生活を過ごす(陸封型)がヤマメです。サクラマスは30~70cmで最大10kgになります。

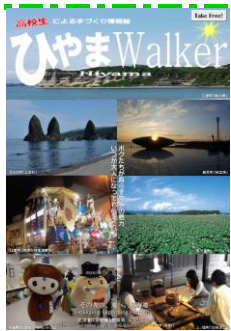
昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つげ1ヶ月 第18回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より

合れ積だ振出→すてフの久械降何は  
羽たもろってオレいの煙遠ぐり時昨今  
を頃ういていーちる様突近っそも日朝  
着雨て。いたイがとなくとうよよは  
たポい船た五しうぐ煙らをかだりり良  
りツたに。六と時んが真通けっ早もい  
、。木木人呼俺、なってるてたく半風  
筵落汽材材はんは近づ黒小奥。錨分だ  
をち船が運笑だ帽づいい樽尻フをもが  
かてが山んいら子いで鳥通にオ上つ雨  
ぶ来ずみで午、をてい賊い向上げかだ  
つづいたった行ら甲振来たののけだたな  
く。といく手板った。ク汽たの。い今  
。皆離にんをにて。見口船。機雨。日

いやを研回もてた名芸ので  
ま新聞修目のい。が員手、二月  
し聞いでので同実課塚北月  
た記たは訪、縁課地程教海十九  
。事り、問一が程研を授学九日  
の、地と昨あの修履引園く  
整古元な年つ〇に修率大く  
理文のりにてB訪すの学二  
な書古ま続実がれるも人十三  
どの老しい現在ま生と学三日  
を解にたし籍し生、学四日  
行読話。二たし 四学部

学芸員実地研修行わる



力作です！

協で取ス櫓るすジ て繫をの  
会す材ポ山情がエび、げ支誇は北  
な。しッ管報、クや地るえり 海  
ど海たト内誌こトま域たてや子道  
で洋上な七がのーウ教めい愛ど教  
配セでど町完度をオ育のく着も育  
布ン制地の成地実―政取人をた育  
中タ作元見し元施力策組材育ち  
。し高所まをし―推―のみの山  
、た校やしPてプ進と育、郷  
観も生観たRい口事し成地土  
光のが光。すま 業 に域へ

ひやまウォーカー発行

キるけた中すも自脱フ在奥  
トでは降旬。あ体線エ中尻大  
びし早雪の今りはとりはへ学  
ロよくも寒冬無地多―寒来の  
のう。あ波は事域難欠波襲く輩  
句。春り以小にので航襲く輩  
いなのま降、雪終皆し、来、ま  
が訪せ、の了さた復、路往しが  
だれん。まよ。んが、路た。真  
かもとう感の、は路た。冬  
も早雪ま、で謝協研Jは。冬  
うま解つ、で力修R 滞

新来之記録(編集後記)

ん館くり土洋二揃まとた校校  
の外だま本研冊つす卒。記す奥  
でのさすコ修とての業ど念る尻  
ご貸いの―セもいで、名ち誌の  
了し。で、ナン非、簿らがに青  
承出希、―タ売く懐がも制伴苗  
くし少ごに―品とか懐がも制伴  
だは本自配図でし載期さ、中  
さ出の由架書すしいさ卒れ両  
い来たにし室がよ、面れ業ま校  
まめごての、う、々て写しの  
せ、覧あ郷海。がい真 閉閉

中学校開校記念誌発刊



東日本海フェリー時代の硬券②